



かおり通信

1月臨時号

NO.11

学校教育目標……『自分らしさを大切にし、互いに認め合える子どもの育成』 「自律」と「共生」

めざす子ども像…『共に考える子・互いに思いやる子・みんなでチャレンジする子・最後まで諦めない子』

めざす学校像…『子どもたちから笑顔が絶えない学校・気持ちのいい挨拶、きれいな学校・教職員同士が
専門家として成長できる学校・保護者の期待に応える学校・地域と学校が支え合う学校』

茅ヶ崎市立香川小学校 校長 松永 忠弘

令和6年1月17日

「大谷選手からのプレゼント」

～強さのひみつのお話～

皆さま、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。
冬休み明け朝会で、子どもたちに向けてこんな話をしました。

挨拶をする前に、お話をしなければならないことがあります。それは、地震のことです。1月1日、能登半島でとても大きな地震がありました。150人以上（1月9日現在）の人が亡くなり、今なお、行方が分からない人もいます。学校の体育館などに避難をしている人もたくさんいるそうです。亡くなられた方々のご冥福をお祈りしましょう。そして、苦しい毎日を送られている方々に心を寄せましょう。それが、私たちができることです。目をつむってください。（黙とう） ありがとう。

さあ、能登の人たちに明るい声を届けましょう。

皆さん、明けましておめでとうございます。



誰ですか？（大谷翔平選手の写真を見せる） そう、ピッチャーとバッターの二刀流でアメリカの大リーグで大活躍している大谷翔平選手です。昨年は、なんと日本人で初めてホームラン王を獲得するという快挙を達成しました。今期は、ロサンゼルス・ドジャーズで、また、素晴らしいプレーを見せてくれることを、きっと世界中が期待しています。

そんな大谷選手、その強さには、秘密があったのです。それは、高校1年生の時に作った「目標達成シート（曼荼羅シート）」です。そこには、「体づくり」や「心を強くする」、「160キロのボールを投げる」などの目標とそのためにはどうしたらよいかなど・・・具体的な目標や行動がびっしり書かれています。大谷選手の今があるのは、目標をしっかりと立てて、それを一つずつ達成するためにひたむきに努力したからなのです。

「1年の計は、元旦にあり」と言います。ぜひ、みなさんも大谷選手のように目標を立ててみてください。

大谷選手が書いたシートの中に「ゴミ拾い」というのがあります。

なぜでしょう。野球とあまり関係ありませんね。・・・大谷選手は、こう言っています。「他人がポイッと捨てた運を拾っているのです。」

大谷選手は、試合中に度々フィールドに落ちているゴミを拾う姿が見られます。落ちているゴミを拾わずに通り過ぎようとする、ゴミから「お前、それでいいのか？」と呼ばれているような気持ちになるそうです。そのほかに「運」のシートには、「部屋そうじ」「あいさつ」「審判さんへの態度」「道具を大切に扱う」「プラス思考」「応援される人間になる」「本を読む」といったことが書いてあります。

皆さんは、どんな目標を立てますか。

なんと、そんな大谷選手から皆さんに素敵なプレゼントが届きました。
これです。（グローブを見せる）

（児童とキャッチボールをする）

て、「協同的な学び」のよさを実感させ、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と感じる場面を増やすことが必要であると考えます。アンケート結果（児童の声）を真摯に受け止め、校内研究を推進し、授業改善を図ってまいります。また、各教科はもとより、そこを足掛かりに学級活動や道徳、総合的な学習の時間とのつながりを創造していきたいと考えます。

（４）ICT活用

▲「５年生まで受けた授業で、PC・タブレットなどのICTを

ほぼ毎日～週３回以上使用した」

○「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか」

*学習場面によって頻度は違うが、ICTの活用が着実に進んでいます。１人１台パソコンの活用について具体的な活用方法や指導計画をさらに整え、推進してまいります。

（５）家庭での学習状況・授業時間以外の学習・読書時間等

△「家で、自分で計画を立てて勉強している」

▲「普段学校以外での勉強時間が１時間以上」 △「30分未満」

▲「授業以外の読書時間が１時間以上」 ▲「全くしない」

○「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか」

*各学年の発達段階に応じた家庭学習について研究を進め、ご家庭の皆さまと情報交換をしながら進めていくことが大切だと感じております。

*読書時間についての設問で「１時間以上」は県の値と同程度。一方で「全くしない」という回答が３割を占めています。

（６）社会や地域とのかかわり

▲「今住んでいる地域の行事に参加している」

△「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」

▲「新聞を読んでいる」

*コロナ禍において、地域の行事に参加できない現状が浮き彫りになっています。

また、地域とのかかわり、意識の希薄さもうかがえます。学校からも積極的に情報を発信していきたいと思えます。

（７）その他

△「学校に行くのは楽しい」

▲「国語の勉強は好きです」

△「算数の勉強は好きです」

△「英語の勉強は好きですか」

*「学校に行くのは楽しい」という設問に対する肯定的回答は、県・全国の値を大きく下回っています。「国語」「英語」に対する児童の肯定的回答は、県・全国の値を大きく下回っています。「算数」については、県・全国と同程度の値です。この結果を真摯に受け止めなければならないと考えます。「好き」とは、どういうことなのか。様々な視点から考えた上で、授業改善はもちろのこと、早急に対策を講じなければならないと考えます。

【お知らせ】

○平尾 槇子（学校給食調理員）1月1日より着任

○菊池 由起（心の教育相談員）12月31日をもって退職

児童の相談については、当面の間、担任及び学年全体、養護教諭、教頭が対応してまいります。何かご心配なこと、お気づきのことがございましたら、何なりとお問い合わせください。

とに基づいて、自分の考えをまとめる活動を取り入れた授業づくりを進めていく必要があると考えます。

(2) 算数

「知識・技能」を問う設問については、「数と計算」では、「1の位が0の二つの2位数について乗法の計算」「加法と乗法の混同した計算や分配法則の活用」、「図形」では、「台形・正三角形の意味や性質の理解」に関する設問の正答率が低かったことから、基礎・基本を習得できるようにする指導が必要であると考えます。

「思考力・判断力・表現力等」を問う設問については、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」に関する設問の中で、理由を記述したり意味を考えたりする設問の正答率が低かったことから、習得した知識を活用しながら、自分の考え方を、図や言葉・式を使って説明したり書いたりする活動を取り入れた授業づくりを進めていく必要があると考えます。

3 児童質問紙調査における本校児童の傾向

○：肯定的な回答の割合が80%以上のもの

△：肯定的な回答の割合が50%以上80%未満のもの

▲：肯定的な回答の割合が50%未満のもの

(1) 家庭生活の状況・基本的な生活習慣等

○「朝食を毎日食べている」

△「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」

○「同じくらいの時刻に起きている」

*基本的な生活習慣は、全国・県の値よりも若干少ないものの概ね身についています。否定的な回答をしている児童に目を向ける必要があると考えます。寝る時間が不規則である児童が2割以上います。家庭の皆さまと連携し規則正しい生活を身につけさせたいと考えます。

(2) 自己有用感・協力・夢や目標に向かう意欲

○「自分には良いところがある」

△「将来の夢や目標がある」

○「先生はあなたのよいところを認めてくれますか」

○「友だち関係に満足しているか」

○「普段の日常の中で、幸せな気持ちになることがある」

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

*自己有用感・協力・助け合い・いじめについて、肯定的な割合が県の割合と同程度でした。

(3) 主体的・対話的で深い学び

△「自分と違う意見について考えるのは楽しい」

△「5年生までの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え自分から進んで取り組んでいた」

△「学級での話し合い活動で、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」

△「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、

学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」

△「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を整理して、

調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」

*「主体的・対話的で深い学び」についての質問項目では、軒並み、県の値を下回っています。特に、学級活動、道徳、総合的な学習の時間における値が、非常に低いです。学習活動全般にわたっ

飾っておくだけではもったいないので、クラスごとに回します。
ぜひ、手に取ってください。

その時、今年の自分の目標について考えてくださいね。

(参考・引用文献「カオナビ人事用語集」「大谷選手の名言・格言・語録集」)

「全国学力学習状況調査結果報告(6年生)」

令和5年4月に6年生を対象に実施した全国学力学習調査の結果をご報告いたします。

「教科に関する調査」については、「測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面」に過ぎません。とはいえ、一方で、本調査の目的の一つは「日ごろの教育活動の成果や課題を把握し、その充実を図ることに」にあります。

本校の、「児童の実態をきめ細かく把握する取組」「あらゆる場面で、一人一人の児童のよい点や可能性に目を向け積極的に伝え、自己肯定感をはぐくむ取組」と合わせて、教育活動の充実・改善に活用してまいります。

1 「教科に関する調査」における本校児童の傾向

(1) 国語

- 平均正答率は、全国、県の平均正答率に比べ、すべての設問でおおむね下回っていました。
- 「知識・技能」を問う設問については、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」(いがい→意外・きかん→期間)「日常よく使われる敬語を理解している」(おっしゃる・うかがう)ことに、課題が見られました。
- 「思考力・判断力・表現力等」を問う設問については、「話すこと・聞くこと」では、「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」「目的や意図に押し話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる」「読むこと」では、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」ことに、課題が見られました。

(2) 算数

- 平均正答率は、全国、県の平均正答率に比べ、ほぼすべての設問でおおむね下回っていました。
- 「知識・技能」を問う設問については、「数と計算」では、1の位が0の二つの2位数について乗法の計算をすることができる」(50×40 を計算する)「加法と乗法の混同した計算や分配法則を用いることができる」($(151+49) \times 3$)ことに、課題が見られました。「図形」では、「台形・正三角形の意味や性質について理解している」ことに、課題が見られました。「データの活用」では、「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる」(文章→表の読み取り)ことに、課題が見られました。
- 「思考力・判断力・表現力等」を問う設問については、「数と計算」では、「()を用いた式や、加法と乗法の混同した式を、場面と関連付けて読み取る」($5 \times 28 + 4 \times 28 \cdot (5+4) \times 28$)「2位数÷1位数のひっ算について、図をもとに商の意味を考えることができる」ことに、課題が見られました。「図形」では、「高さが等しい三角形の面積の求め方」に、「変化と関係」では、「比例の関係を用いた計算ができる」ことに、「データの活用」では、「数の棒グラフの値の違いを読み取る」ことに、課題が見られました。

2 「教科に関する調査」から見えてきた課題の改善に向けて

(1) 国語

「知識・技能」を問う設問については、「漢字」「敬語」に関する設問の正答率が低かったことから、基礎的基本的な内容を習得できるようにする指導が必要であると考えます。

「思考力・判断力・表現力等」を問う設問については、「話すこと・聞くこと」「読むこと」に関する設問の正答率が低かったことから、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えたり、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめたりする活動や、文章を読んで理解したこ